

安芸太田町 子育て支援に関するアンケート調査 調査結果と次期計画に向けた課題

* () 内は報告書掲載頁

◇調査の概要

1 調査目的

安芸太田町子ども・子育て支援事業計画の基礎資料とするため。

2 調査対象

就学前児童 141 世帯・小学生 142 世帯

3 調査方法

保育所、幼稚園、小学校において実施および郵送による配付

4 調査時期

平成 31 年 1 月 11 日～平成 31 年 1 月 28 日(平成 31 年 2 月 14 日回収分まで含む)

5 回収結果

1 就学前児童 120 票(有効回答率 85.1%)

2 小学生 118 票(有効回答率 83.1%)

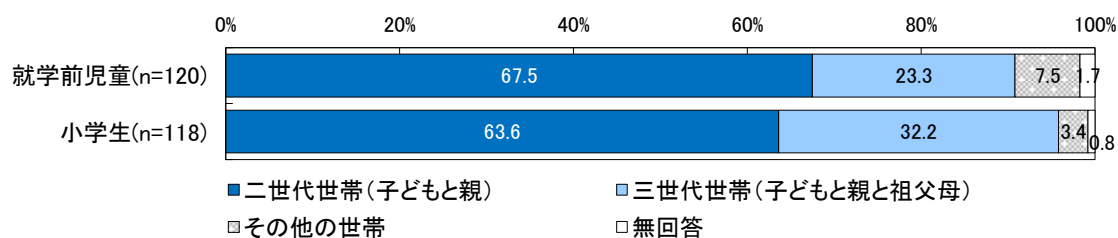
◇調査結果

1 子育て家庭の状況

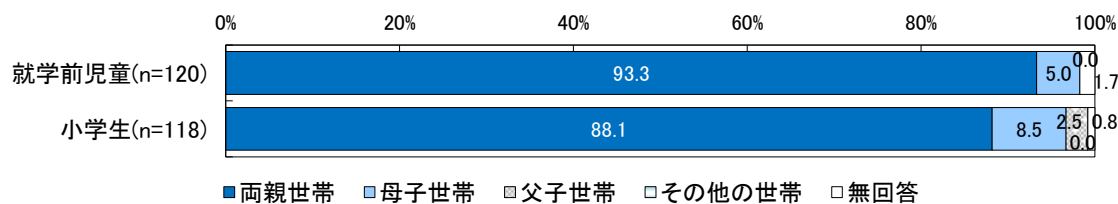
(1) 世帯構成

- 子どもと親の核家族が就学前児童で 67.5%、小学生で 63.6%とほとんどを占めている。(p.2)
- 両親ともにいる家庭が就学前児童で 93.3%、小学生で 88.1%、ひとり親家庭が就学前児童で 5.0%、小学生で 11.0%となっており、年齢が高くなるとひとり親家庭の割合が高くなっている。(p.3)

【世帯構成】



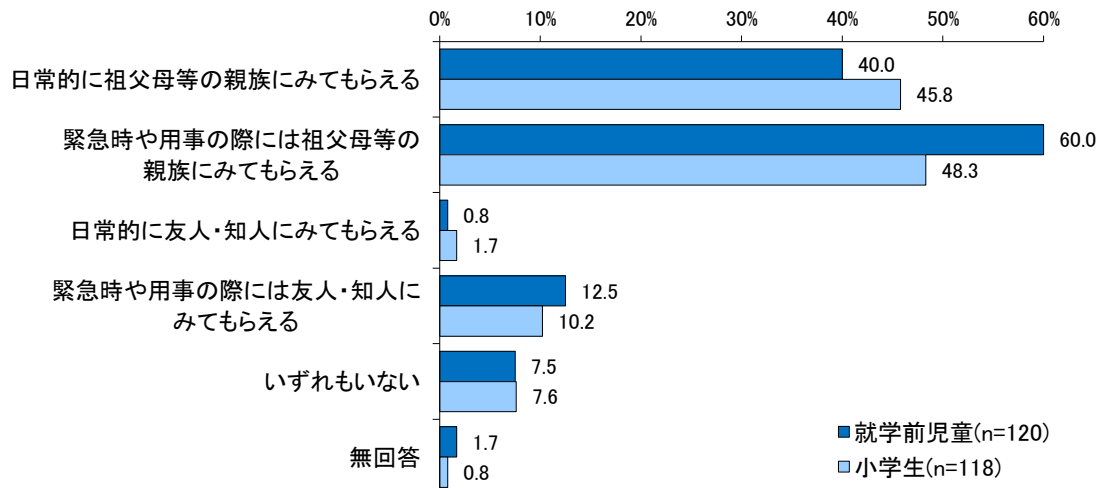
【ひとり親家庭の状況】



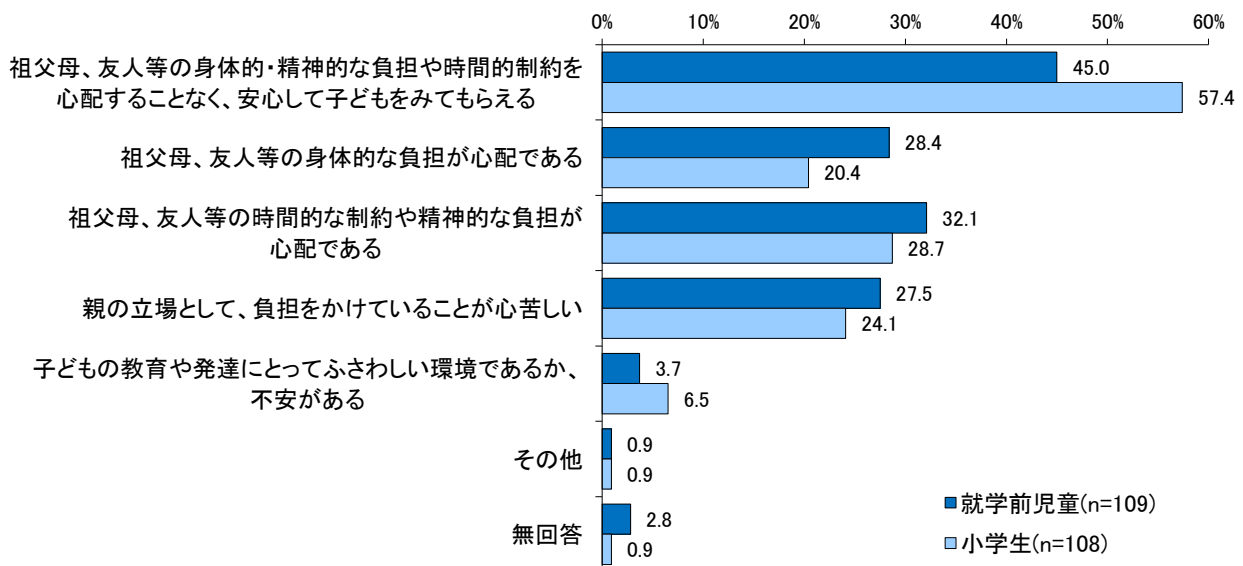
(2) 子どもをみてもらえる親族・知人の状況

- 子どもをみてもらえる親族・知人がいる家庭の割合は就学前児童、小学生ともに約9割となっている。
(p.6)
- 子どもをみてもらえる親族・知人がいる家庭のうち、何らかの心配や心苦しい思いを感じている割合は就学前児童で51.3%、小学生で40.8%となっている。(p.7)

【子どもをみてもらえる親族・知人の有無】



【子どもをみてもらえる親族・知人の状況（就学前児童）】



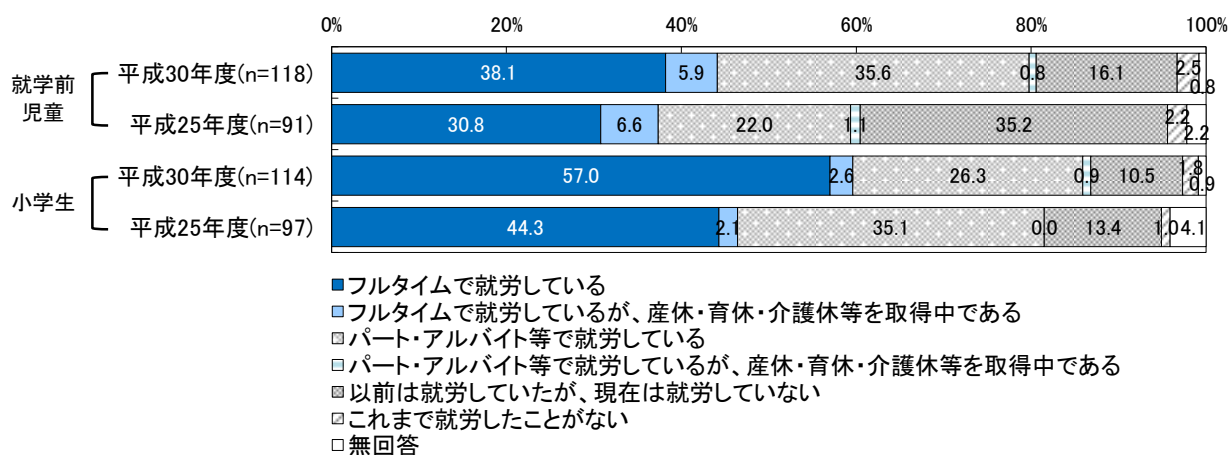
課題	● 核家族家庭、ひとり親家庭、子どもをみてくれる人がいない家庭等、家庭の状況に応じて利用することができる支援の提供体制が必要である。
検討すべき取組	● 家庭の状況に対応した子育て支援の充実

2 就学前の教育・保育の総合的な提供

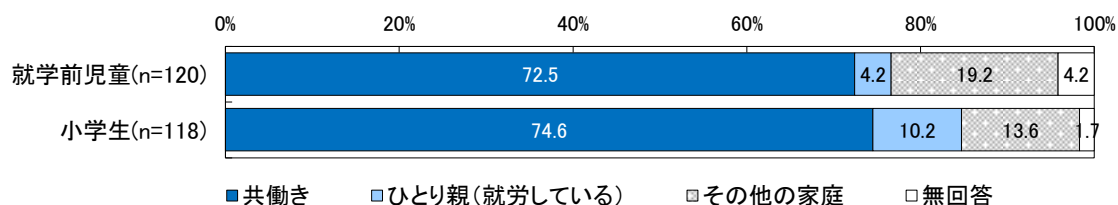
(1) 保護者の就労状況

- 就労している母親の割合は、5年前の調査と比較して上昇している。(p.9)
- 両親ともに就労している家庭の割合は就学前児童で72.5%、小学生で74.6%となっている。(p.16)

【母親の就労状況（前回調査結果との比較）】



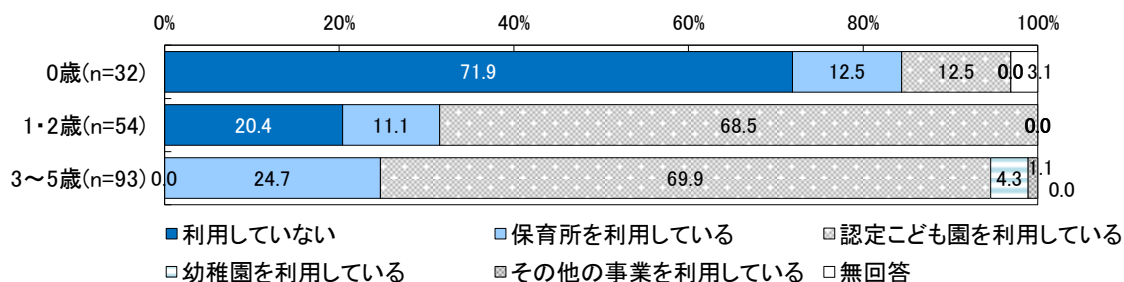
【両親の共働きの状況】



(2) 教育・保育事業の利用状況・利用意向

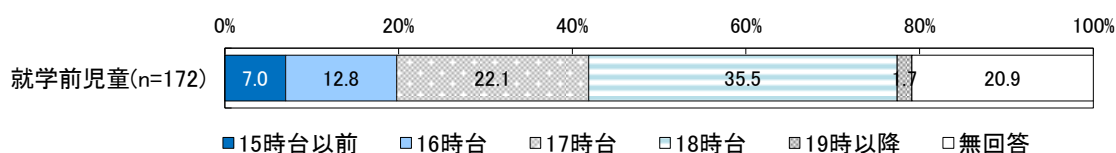
- 教育・保育事業を利用している割合は、0歳で25.0%、1・2歳で79.6%、3～5歳で100.0%となっている。(p.17)

【教育・保育事業の利用状況（就学前児童・年齢別）】

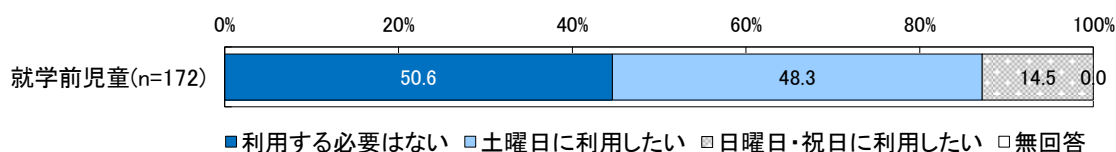


- 教育・保育事業について、19 時以降まで利用を希望する割合が 1.7%となっている。(p.20)
- 土曜日の利用意向がある割合は 48.3%、日曜日・祝日の利用意向がある割合は 14.5%となっている。(p.21)

【教育・保育事業の利用希望終了時間（就学前児童）】

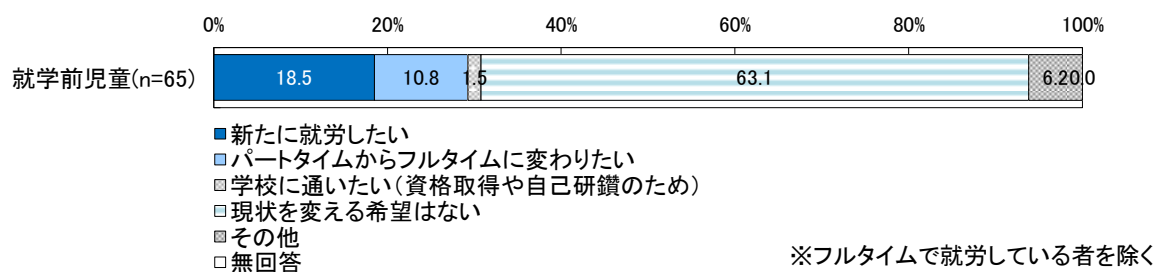


【土曜日・日曜日等の幼稚園や保育園の利用希望（就学前児童）】



- 幼児教育・保育の無償化が実施された場合、フルタイムで就労している者を除き、母親が「新たに就労したい」と回答した割合が 18.5%、「パートタイムからフルタイムに変わりたい」と回答した割合が 10.8%となっている。(p.33)

【幼児教育・保育が無償化された場合の就労状況等の変更希望（就学前児童・母親）】

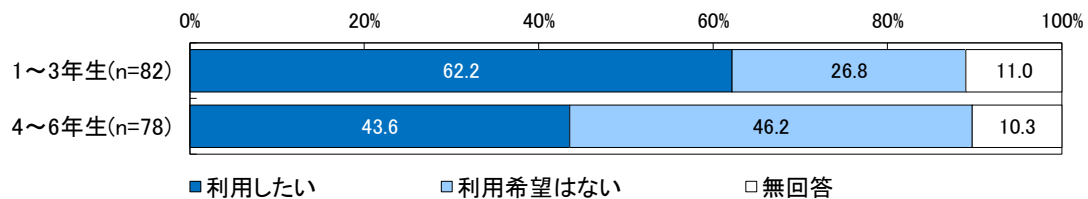


課題	● 両親が共働きである家庭の増加など、家族形態の変化や就労形態の多様化により、教育・保育事業に求められるニーズも多様化しており、様々な状況に応じた教育・保育事業の提供体制の整備が必要である。 ● 潜在的な利用意向や教育・保育の無償化による動向を踏まえ、今後、教育・保育事業の見込量を算出し、ニーズに対応した提供体制の整備が必要である。
検討すべき取組	● 多様化するニーズに対応したサービスの提供

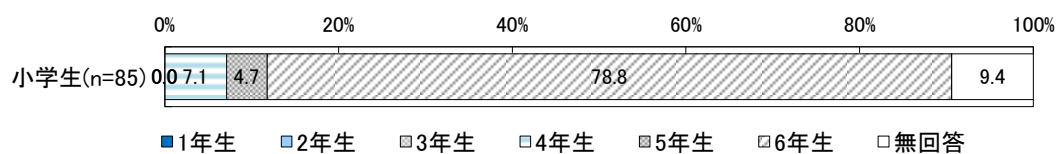
3 放課後児童クラブの利用意向

- 放課後児童クラブを今後の利用意向がある割合は小学生の1～3年生が 62.2%、4～6年生が 43.6%となっている。(p.25)
- 利用したい学年は、小学生で利用意向がある家庭で「6年生まで」と回答する割合が 78.8%と高くなっている(p.26)

【放課後児童クラブの利用希望（小学生・学年別）】



【放課後児童クラブの利用希望終了学年（小学生）】

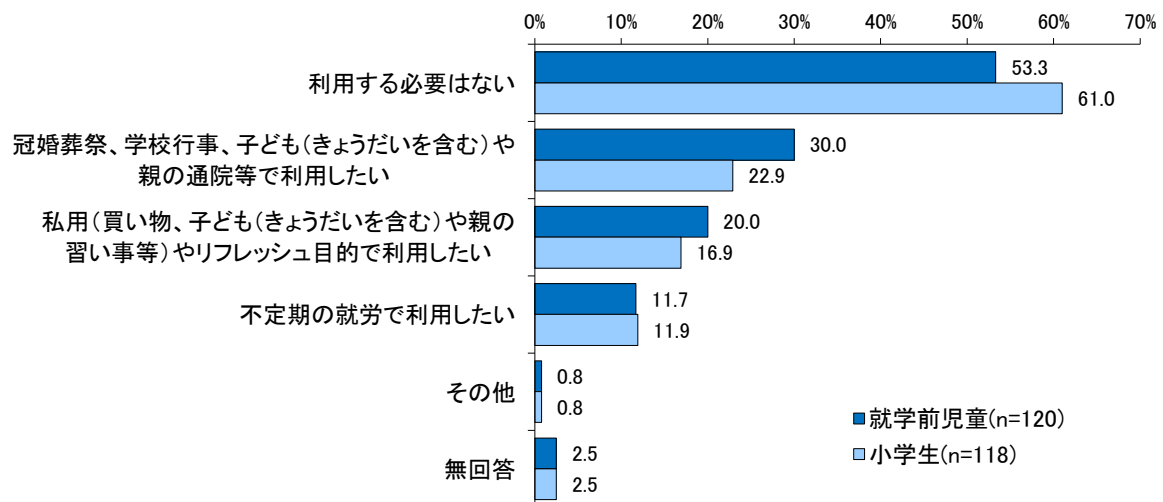


課題	● 就学前児童においても、放課後児童クラブの利用ニーズは高くなっている。 ● 放課後児童クラブを高学年まで利用したいニーズは高くなっている。 ● 潜在的な利用意向を踏まえ、今後、見込量を算出し、拡大するニーズに対応する提供体制の整備が必要である。
検討すべき取組	● ニーズに対応した提供量の確保

4 一時的な保育事業の利用意向

- 不定期の保育事業の利用意向がある家庭は就学前児童で 44.2%、小学生で 36.5%となっている。
(p.31)

【不定期に子どもを預ける事業の利用希望】



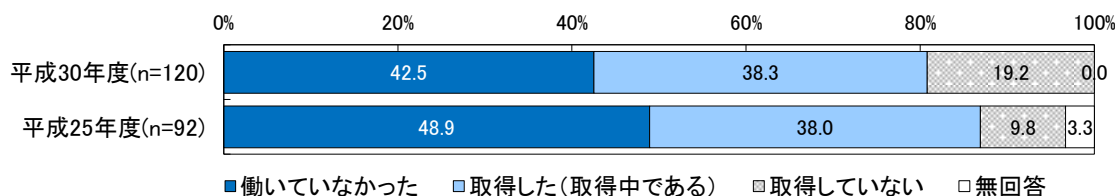
課題	● 親の急な用事や病気などの際の一時的な保育のニーズは多く、近隣に子どもをみてもらえる人がいない家庭もある。一時的な保育の提供量や利用しやすい体制など、事業の充実を図る必要がある。
検討すべき取組	● 一時的な保育事業へのニーズに対応した提供体制の整備

5 仕事と生活の調和の実現

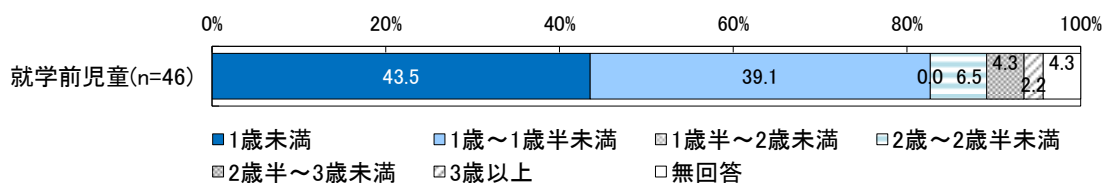
(1) 育児休業の取得状況

- 育児休業を取得した(取得中である)母親の割合は 38.3%となっている。(p.70)
- 復帰時に必ず保育所等を利用できる場合の希望取得期間は長い期間の割合が高くなっている。(p.71)

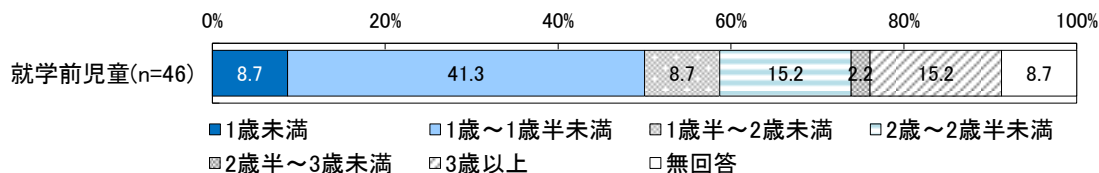
【育児休業取得状況(母親)(就学前児童・前回調査結果との比較)】



【育児休業取得期間(母親)(就学前児童)】



【復帰時に必ず保育所等を利用できる場合の育児休業取得希望期間(母親)(就学前児童)】

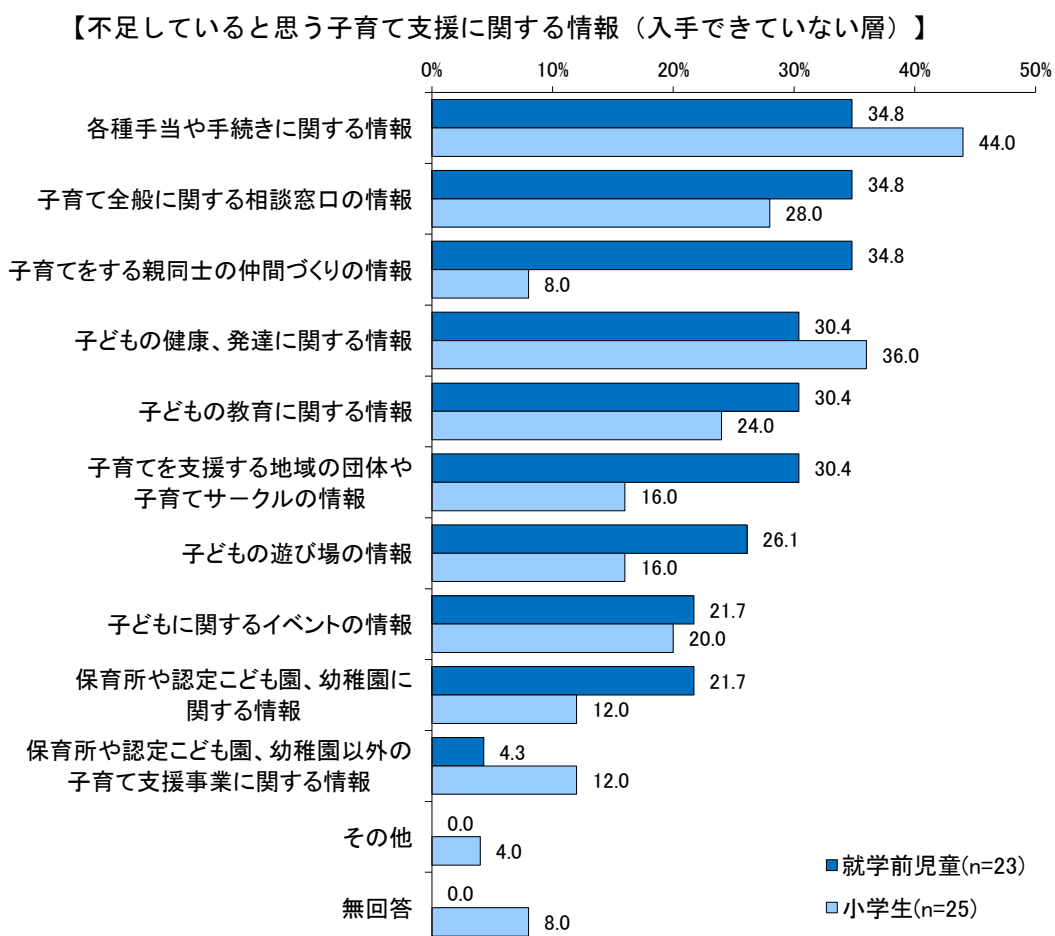
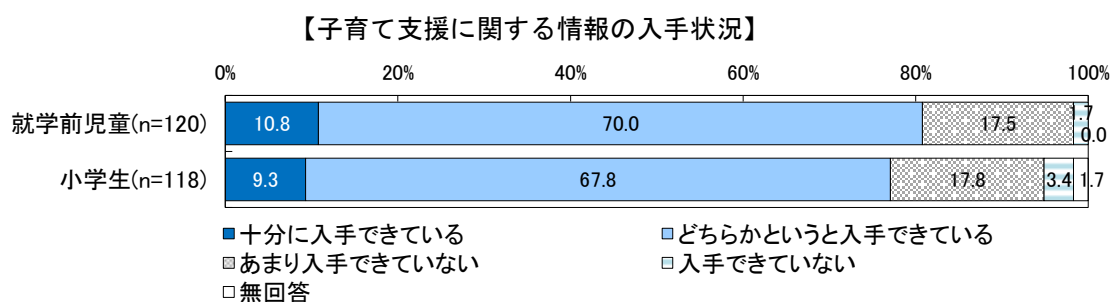


課題	● 育児休業を取得していない母親がいるため、取得できる環境整備について企業、事業所等に働きかけることが重要である。 ● 育児休業を取得した経験がある母親の、復帰時に必ず保育所等を利用できる場合の希望取得期間は長い期間の割合が高くなっているため、保育所等を利用できる体制整備が重要である。
検討すべき取組	● 企業における子育て支援の環境整備の促進 ● 低年齢児の教育・保育の整備

6 子育てに関する情報提供

(1) 子育てに関する情報の入手状況

- 子育てに関する情報を『入手できている』（「十分に入手できている」+「どちらかというと入手できている」）と回答した割合は就学前児童で 80.8%、小学生で 77.1%となっている。（p.43）
- 『入手できていない』（「入手できていない」+「あまり入手できていない」）と回答した家庭の不足している情報は、就学前児童では「各種手当や手続きに関する情報」、「子育て全般に関する相談窓口の情報」、「子育てをする親同士の仲間づくりの情報」、小学生では「各種手当や手続きに関する情報」、「子どもの健康、発達に関する情報」と回答した割合が上位となっている。（p.44）

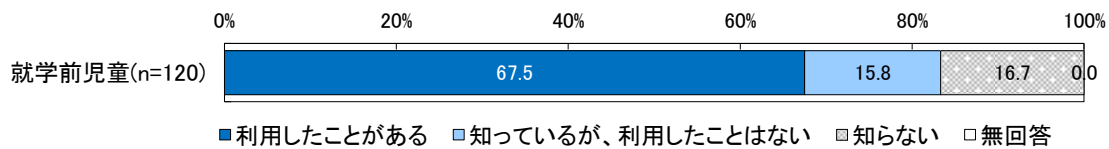


(2) 子育て支援サービスの認知度、利用経験

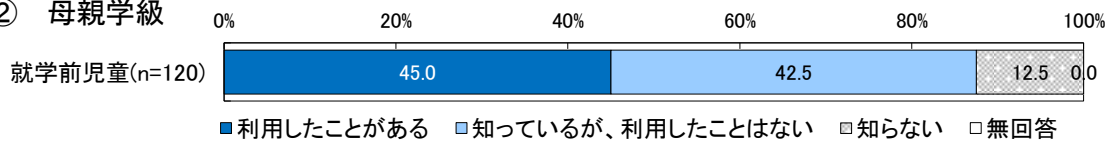
- 子育て支援サービスの利用経験は、「妊婦健診交通費助成制度」は約 7 割となっているが、「お陽さま相談」は約 2 割と低くなっている。(p.40.41)

【子育て支援サービスの認知度、利用経験】

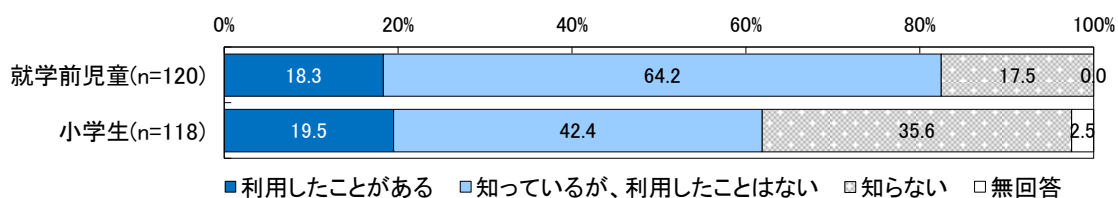
① 妊婦健診交通費助成制度



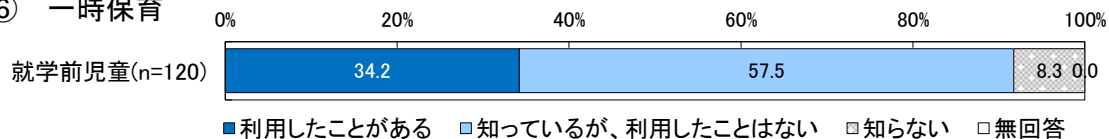
② 母親学級



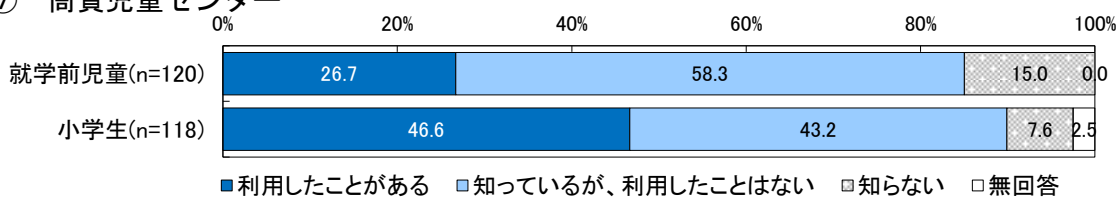
④ お陽さま相談



⑥ 一時保育



⑦ 筒賀児童センター

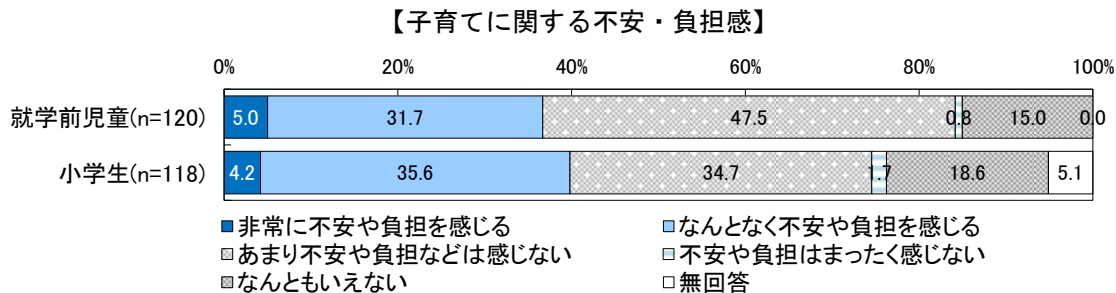


課題	● 子育てに不安や負担を感じる家庭や困難な状況にある家庭に必要な支援や相談につなぐためには、前提としてその情報が伝わる必要があるため、今後も効果的な情報提供方法を検討し、充実を図る必要がある。
検討すべき取組	● 子育てに関する情報提供と利用しやすい体制の整備

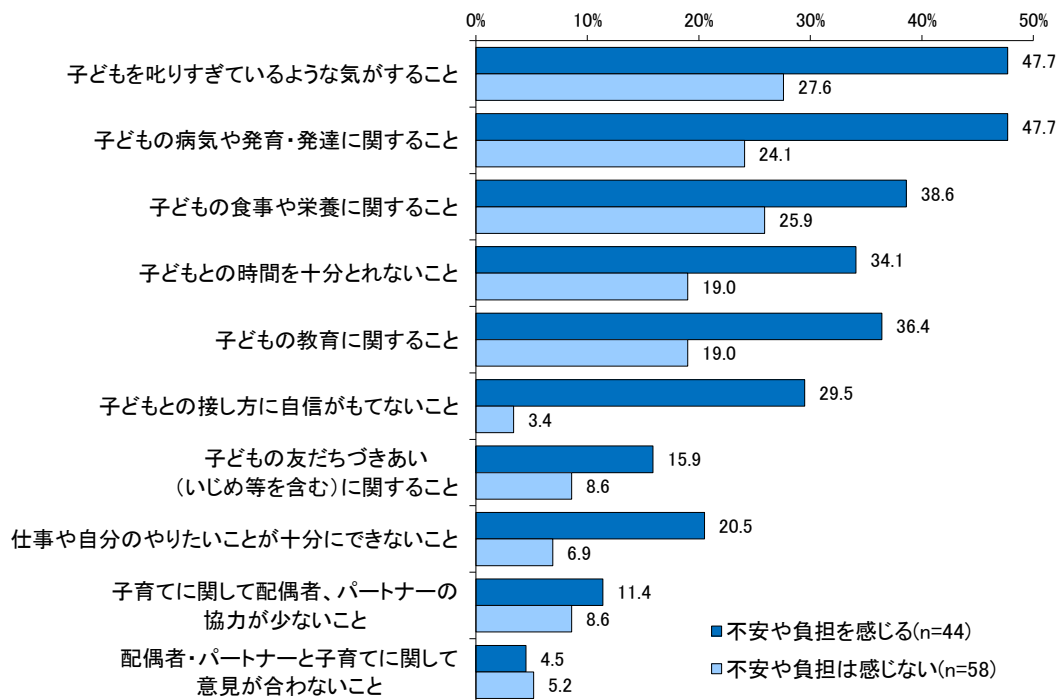
7 子育てに関する相談

(1) 子育てに関する不安・負担

- 子育てに関する『不安や負担を感じる』（「非常に不安や負担を感じる」+「なんとなく不安や負担を感じる」）と回答した割合が就学前児童で 36.7%、小学生で 39.8%となっている。（p.45）
- 子育てについて悩んでいること、気になることとして、不安や負担を感じている家庭では、「子どもを叱りすぎているような気がする」、「子どもの病気や発育・発達に関すること」多くの項目の割合が感じていない家庭よりも高くなっている。（p.48.49）

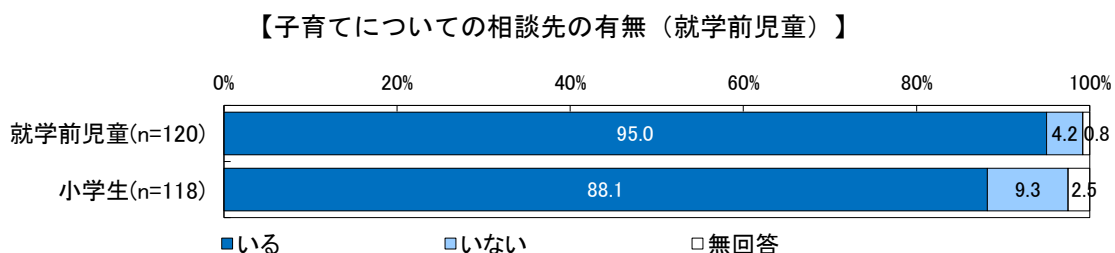


【子育てについて悩んでいること・気になること（上位 10 項目・就学前児童・不安や負担の有無別）】



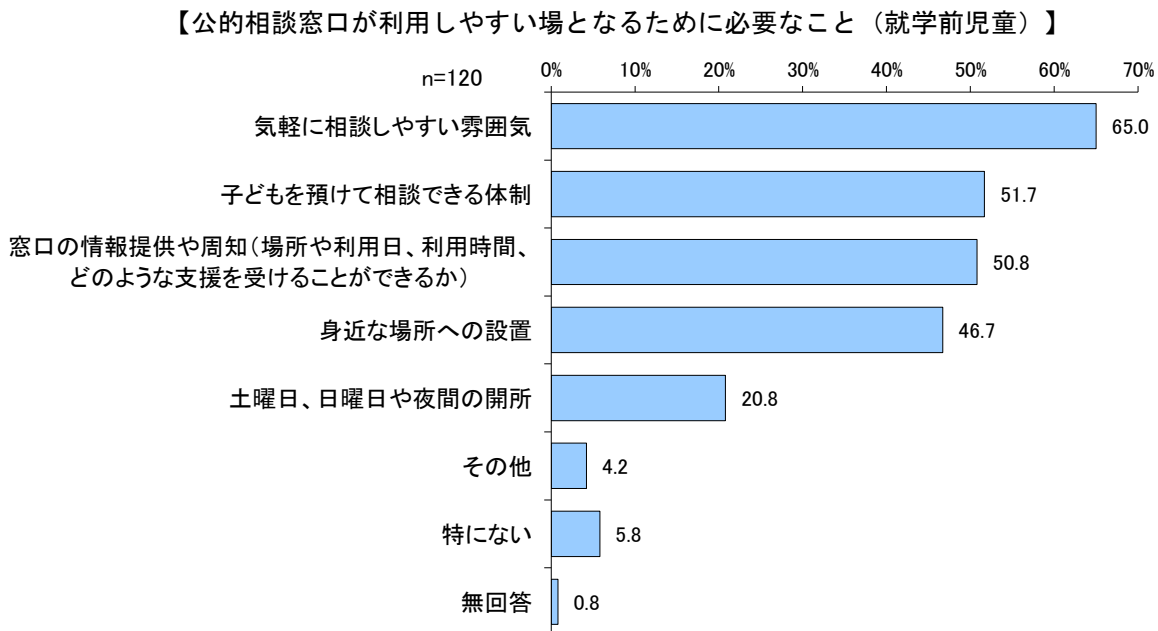
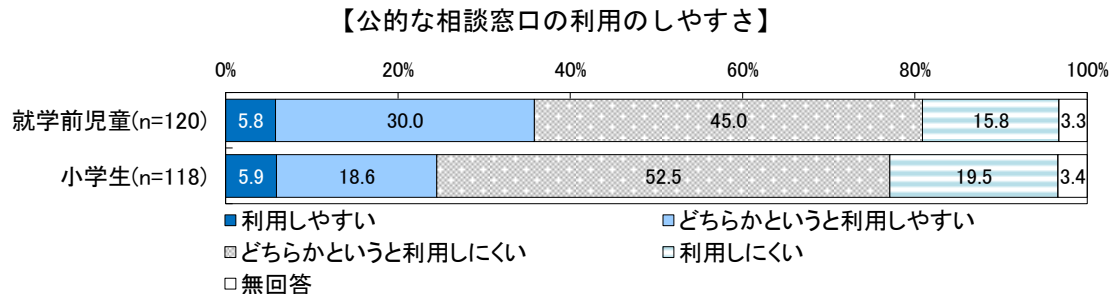
(2) 子育てに関する相談の状況

- 子育てについて気軽に相談できる先がないと回答した割合は就学前児童で 4.2%、小学生で 9.3%となっている。（p.52）



(3) 公的相談窓口の利用状況

- 公的な相談窓口を利用しやすいと評価する割合は、就学前児童で 35.8%、小学生で 24.5%となっている。(p.54)
- 公的相談窓口が利用しやすい場となるために必要なことは、「気軽に相談しやすい雰囲気」の割合が 6 割を超えている。(p.57)



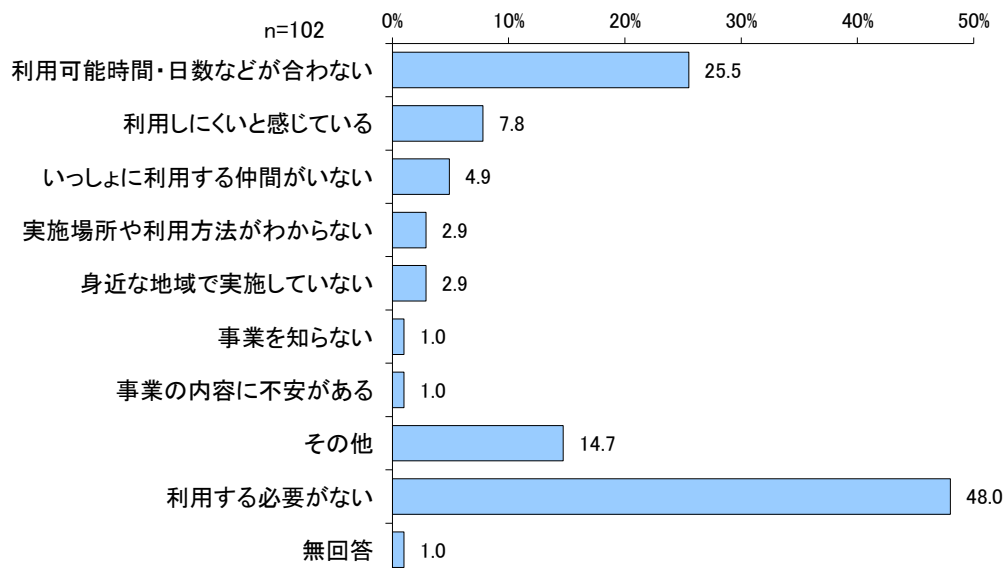
課題	● 公的な相談機関等を利用しやすいと回答する割合は低く、利用しやすい場となるために必要なこととして、「気軽に相談しやすい雰囲気」という回答が上位となっていることから、利用しやすい体制や、他の事業や地域の支援からつなげるなど利用のきっかけづくりを進める必要がある。
検討すべき取組	● 子育てに不安・負担を感じる家庭に対する支援の充実 ● 関係機関・地域との連携による相談体制の充実

8 地域子育て支援拠点事業の利用状況・利用意向

(1) 地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）の利用

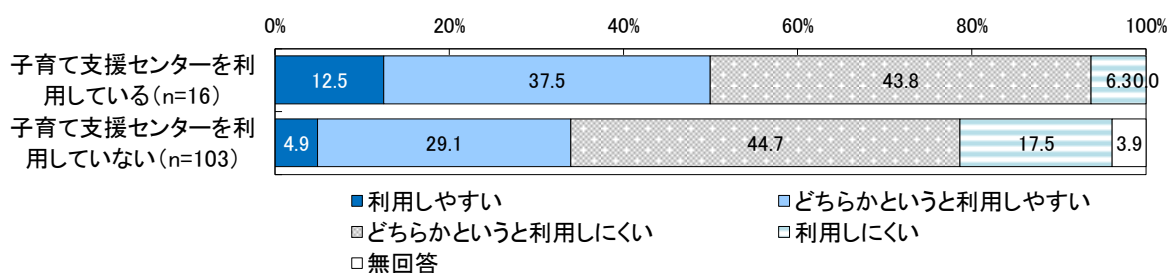
- 地域子育て支援拠点事業を利用していない理由は、利用の必要がない場合を除くと、「利用可能時間・日数などが合わない」、「利用しにくいと感じている」、「いっしょに利用する仲間がいない」の割合が高くなっている。(p.37)

【地域子育て支援拠点事業を利用していない理由（就学前児童）】



- 子育て支援センターの利用状況別にみると、公的な相談窓口を『利用しやすい』と回答した割合は、子育て支援センターを利用している層で高くなっている。(p.38)

【公的な相談窓口の利用のしやすさ（就学前児童・子育て支援センターの利用状況別）】

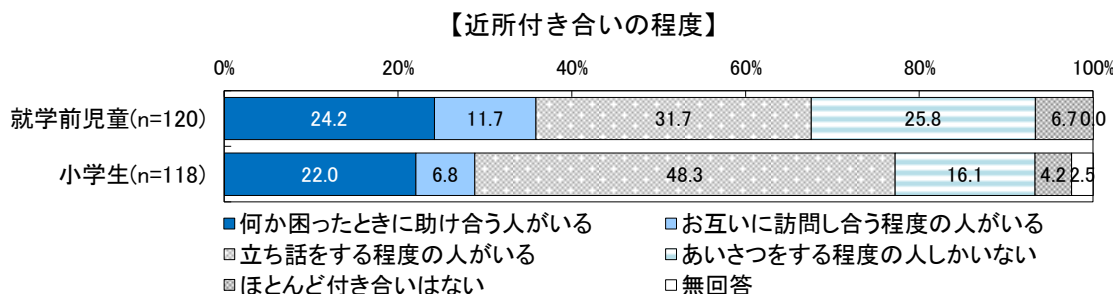


課題	● 子育て支援センターを利用している家庭では、公的な相談窓口への評価が高くなっていることから、利用意向がある家庭や子育て支援センターの情報を知らない家庭を利用につなぐことが重要である。 ● 子育てに不安や負担を感じる母親の利用につながるよう、事業の情報を周知するとともに、利用のきっかけづくりが必要である。
検討すべき取組	● 子育て支援センターの利用促進

9 地域の子育て支援の状況

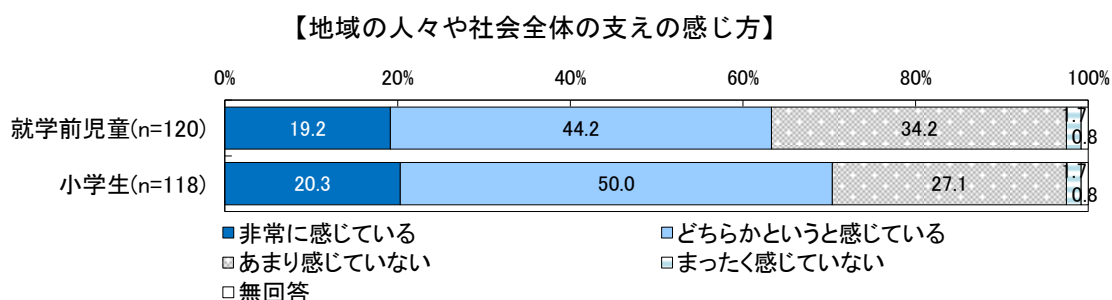
(1) 地域の人とのつながりの有無

- 近所との付き合いの状況として、『深い付き合いがある』(「何か困ったときに助け合う人がいる」+「お互いに訪問し合う程度の人がある」)家庭は就学前児童で 35.9%、小学生で 28.8%となっている。
(p.60)

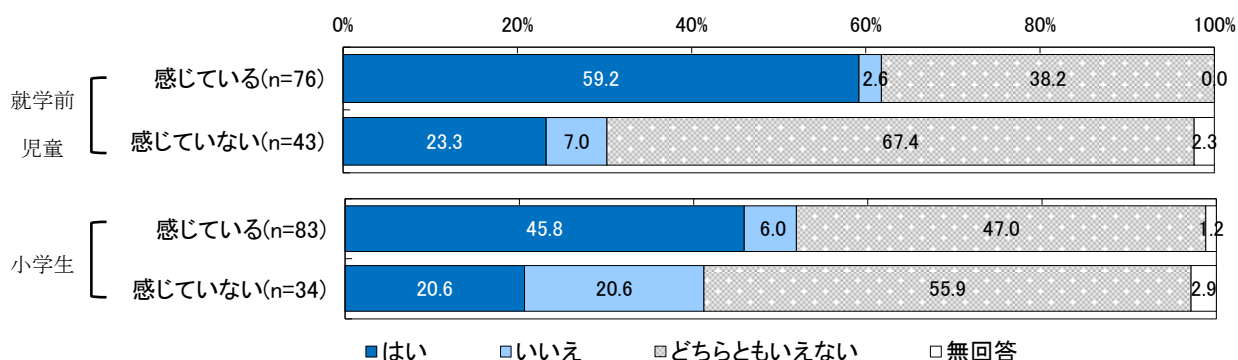


(2) 子育てへの地域の支えの有無

- 地域の人々や社会全体の支えを感じている家庭は、就学前児童で 63.4%、小学生で 70.3%となっている。(p.62)
- 安芸太田町が子育てがしやすいまちだと思う層では、地域の人々や社会全体の支えを感じている割合が高い。(p.67)



【安芸太田町は子育てがしやすいまちだと感じるか（地域の人々や社会全体の支えの感じ方別）】

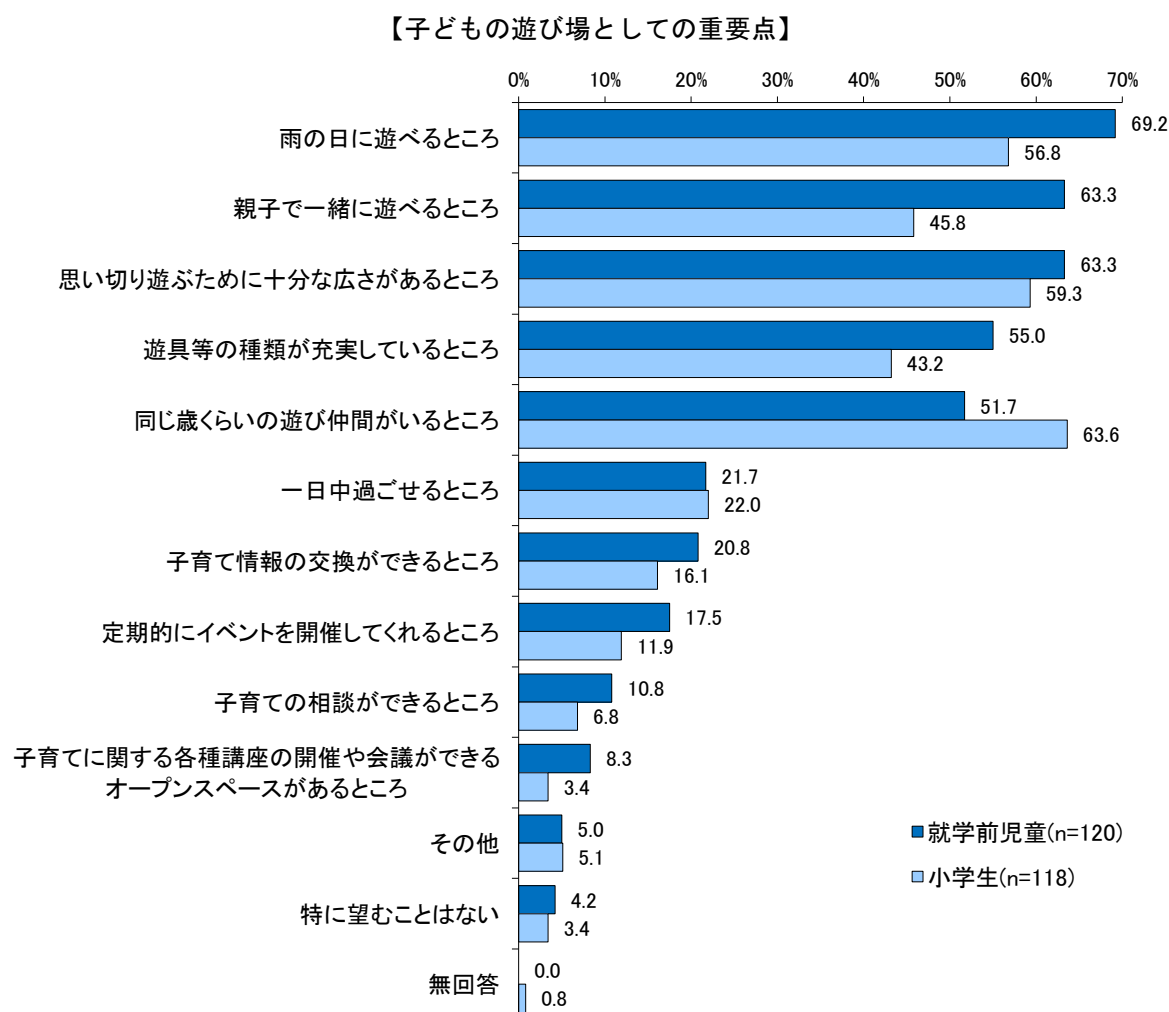


課題	● 地域とのつながりが希薄になっているが、「地域の人々や社会全体の支えを感じている」と思う層では、「安芸太田町が子育てがしやすいまちだ」と感じる割合が高くなっていることから、地域と連携した子育て支援が重要である。
検討すべき取組	● 地域と連携した子育て支援の充実

10 子どもが安心して生活できる環境づくり

(1) 子どもの遊び場の状況

- 子どもの遊び場としての重要点として、就学前児童では「雨の日に遊べるところ」、「親子で一緒に遊べるところ」、「思い切り遊ぶために十分な広さがあるところ」、「遊具等の種類が充実しているところ」、「同じ歳くらいの遊び仲間がいるところ」、小学生では「同じ歳くらいの遊び仲間がいるところ」、「思い切り遊ぶために十分な広さがあるところ」、「雨の日に遊べるところ」の割合が上位となっている。
(p.64)

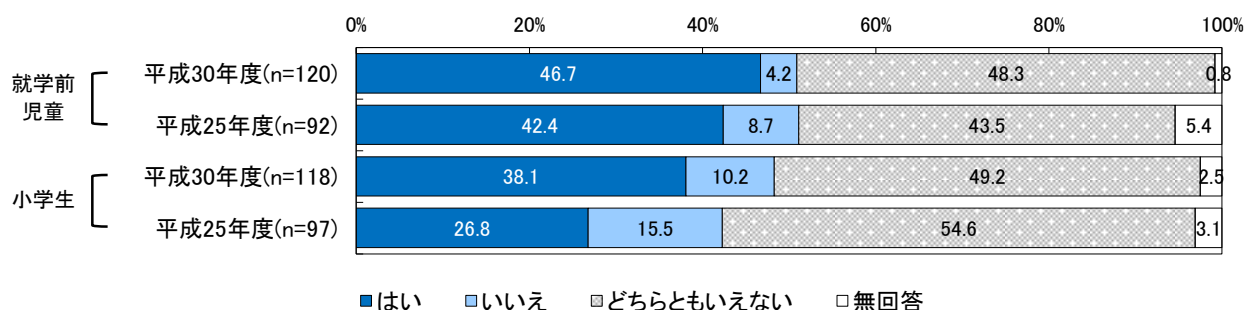


課題	● 子どもの遊び場へのニーズは高くなっていることから、身近で安心して過ごせる遊び場の整備が必要である。
検討すべき取組	● 安心して過ごせる身近な遊び場や環境の整備

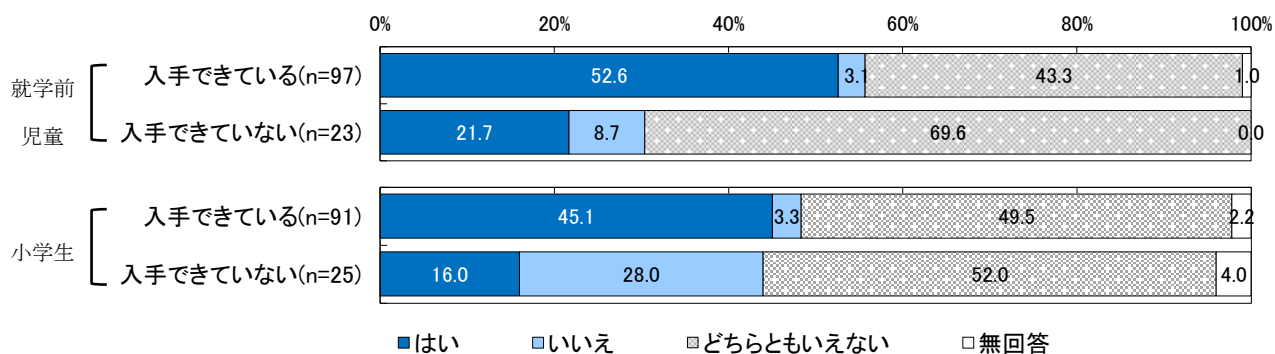
11 総合的な評価

- 前回調査結果と比較すると、子育てがしやすいまちだと感じる（「はい」）と回答した割合は就学前児童、小学生ともに上昇している。（p.68）
- 情報を入手できている層では、子育てがしやすいまちだと感じる（「はい」）と回答した割合が高くなっている。（p.65）
- 公的相談窓口を利用しやすいと感じている層では、子育てがしやすいまちだと感じる（「はい」）と回答した割合が高くなっている。（p.66）
- 子育て仲間がいる層では、子育てがしやすいまちだと感じる（「はい」）と回答した割合が高くなっている。（p.66）
- 町に充実を求める子育て支援について、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」と回答した割合が最も高くなっている。（p.69）

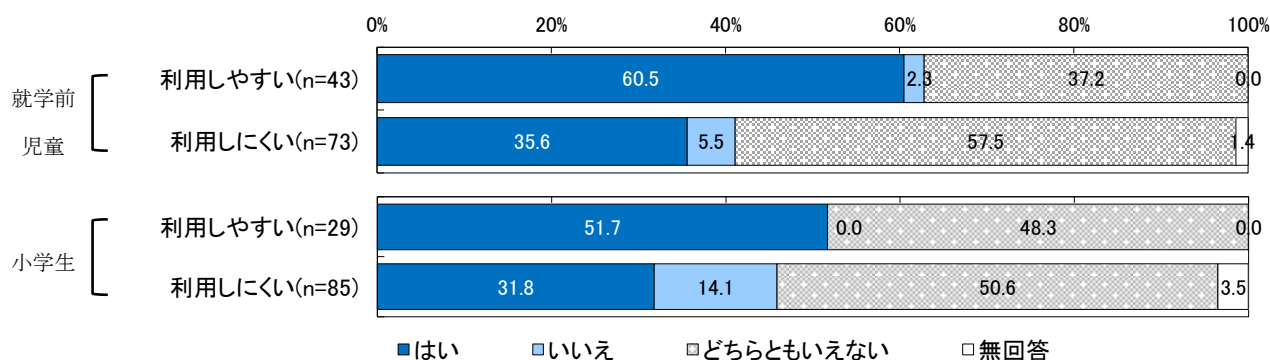
【安芸太田町は子育てがしやすいまちだと感じるか（前回調査結果との比較）】



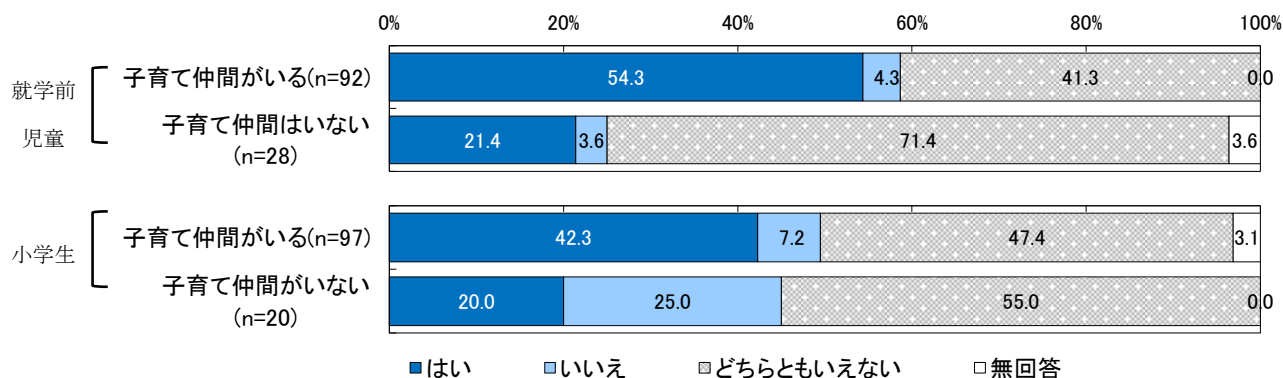
【安芸太田町は子育てがしやすいまちだと感じるか（情報の入手状況別）】



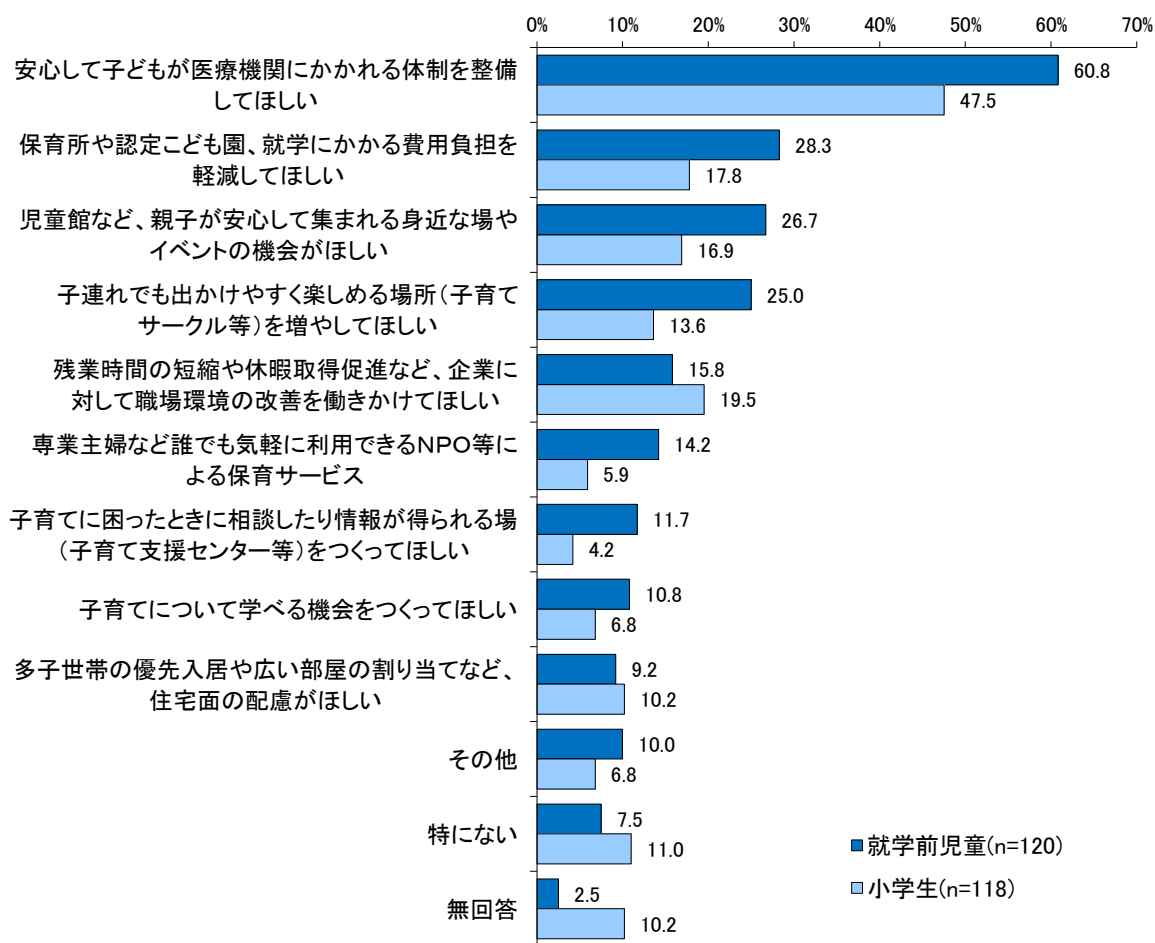
【安芸太田町は子育てがしやすいまちだと感じるか（公的相談窓口の利用のしやすさ別）】



【安芸太田町は子育てがしやすいまちだと感じるか（就学前児童・子育て仲間の有無別）】



【町に充実を求める子育て支援】



課題	情報入手ができていない層、相談窓口を利用しやすいと感じている層、子育て仲間がいる層では、「安芸太田町が子育てがしやすいまちだ」と感じる割合が高くなっていることから、今後も子育て支援施策の充実を図る必要がある。
検討すべき取組	子どもと子育て家庭が安心して暮らすための施策の更なる充実